

平成 31 年度
施政方針

平成 31 年 2 月 22 日

富津市長 高橋 恭市

施政方針

(はじめに)

本日ここに、平成 31 年 3 月富津市議会定例会を招集し、平成 31 年度予算案をはじめ、各議案の御審議をお願いするに当たり、市政運営の基本となる考え方を申し上げ、市民の皆さん並びに議員各位の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

富津市の人口は、1985 年の 56,777 人をピークに減少に転じ、平成 31 年 2 月 1 日現在で 43,648 人となっています。

今後も人口減少が続くことが予想される中、平成 28 年 3 月に策定した「富津市人口ビジョン 2040」でお示ししたとおり、2040 年の人口 34,000 人を目標に人口減少を抑制するべく取り組んでいるところです。

私は、「市民の皆さんが自信を持って次世代にバトンを渡せる富津市づくり」を実現していくためには、市民の皆さんがより一層、富津市に誇りや愛着を持っていただくことが大切であると考えます。このため、市長に就任して以来、市民、市議会議員、各種団体の方々などとの対話が必要であると考え、いろいろな機会に様々な世代の皆さんの御意見をお伺いしてまいりました。皆さんからいただいた言葉を真摯に受け止め、一つ一つ進んでいきたいと考えます。

市の抱える課題に対して、私たち市民一人ひとりが、自分のこととして捉え、富津市の現状や取組を「知っていただく」「理解していただく」「協力していただく」ことが、課題解決への大きな力になると考えております。

皆さんが笑顔で暮らし、幸せを感じていただけるよう、富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実行により、活力あふれるふるさと富津市のまちづくりに全力で取り組んでまいります。

それでは、平成 31 年度施政方針について申し上げます。

(予算編成)

平成 31 年度の予算は、引き続き、厳しい財政状況ではありますが、「市民の皆さんが自信を持って次世代にバトンを渡せる富津市づくり」を念頭に、富津市経営改革プランの最終年度として持続可能な行政経営の実現と、富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた事業の推進を基本方針に、足元を固めながら新たな時代を

見据え、焦点を絞った「未来思考型予算」として編成いたしました。

子育て世帯への支援や子育て環境の一層の充実、学校、道路、橋梁等公共施設の整備、長寿命化をはじめ、市民の皆さんが、生涯を通じて安全で安心していきいきと暮らし続けるための様々な取組に係る費用を計上したところであります。

主な事業は、(仮称)地域交流支援センターの設置、天羽中学校校舎改築、小中学校の再配置推進、市道浅間山線の整備、岩瀬地先の海岸橋の長寿命化修繕、移住・定住促進、公共交通の充実、広域行政の推進などであります。

一般会計は191億5,000万円で、対前年度比10.7パーセントの増となったほか、国民健康保険事業特別会計は59億2,300万円、後期高齢者医療特別会計は6億400万円、介護保険事業特別会計は48億9,700万円、温泉供給事業特別会計は290万円、全会計の総額は305億7,690万円としました。

(経営改革)

少子高齢化による財源の縮小、公共施設の老朽化に伴う更新費用の増大など、今後も本市の財政運営は厳しい状況が見込まれる中、平成27年度に策定した「富津市経営改革プラン」に基づき、持続可能な行政経営の実現のため経営改革に取り組んでまいりました。プラン最終年度を迎え、目標として掲げた「収支改善額」「財政調整基金残高」「地方債残高」の目標値を達成できるよう、引き続き、気を緩めることなく、職員一丸となって経営改革を断行してまいります。

経営改革の重要課題である、公共施設の再配置につきましては、平成28年3月に策定した「富津市公共施設等総合管理計画」に基づき、今後、市議会や市民の皆さんから御意見をいただきながら、公共施設全体の再配置の方針を全庁横断的な視点により定める「富津市公共施設再配置推進計画」を策定してまいります。

また、行政組織を見直し、多様化する市民ニーズや市の抱える行政課題に対応できる機能的な組織体制の構築を図ります。具体的には、組織の再編による効率化、「資産経営課」の新設による公共施設の再配置に向けた体制強化、「福祉の窓口課」の新設による福祉に関する相談窓口のワンストップ化などを進めてまいります。

「ひとの創生」

私は、まち、ひと、しごとの創生のうち、まず、ひとの創生があり、まちの創生、

しごとの創生へとつながると考え、市政運営に取り組んでまいりました。

富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度を迎え、各施策の目標値達成に向けて、引き続き、全力で取り組んでまいります。

始めに、子育てしやすいまちについて申し上げます。

子育てしやすいまち日本一を実現するため、安心して子育てができ、子どもたちの笑顔があふれ、子育てが喜びとして感じられるまちづくりを目指してまいります。

そこで、結婚を希望される男女の出会いの場を提供する企業や団体に対して、その費用を助成します。また、引き続き、結婚相談所を開設し、結婚の機会を望む人たちへの支援を行います。

不妊に悩み治療を受ける方々に対して、特定不妊治療費の助成を行い、経済的負担の軽減を図ります。

産後、退院間もない、支援の必要な母子に対して、産後ケアサービス事業を実施し、心身のケアや育児のサポートを行います。

また、医師、保健師などの実務経験をもとに作成された「子どもノート」を、新たに出産されたお母さんに配付します。このノートを活用して、乳幼児健康診査や母子相談を実施し、母子の健康保持、増進、健全な発育を支援します。妊娠期から子育て期を通して健診等の情報の一元化を図り、妊産婦とも顔の見える信頼関係を築きながら、きめ細かな子育て支援サービスの提供につなげてまいります。

子どもの成長にとって、本の読み聞かせをすることは大切であることから、4か月児健診と連携して、市民ボランティアによる読み聞かせと初めての絵本をプレゼントするブックスタート事業は、引き続き、実施します。

子育て中の皆さんが親子で気軽に訪れ、情報交換や子育てに関する相談ができる(仮称)地域交流支援センターの開設に向けて、天羽老人憩の家の改修を行います。

子育て期に安心、喜びを実感できるよう、引き続き、第三子以降の保育料無料化、乳幼児紙おむつ処理用ごみ袋の支給、ファミリーサポートセンター利用助成、赤ちゃん休憩室事業等を実施します。保育士支援アドバイザーが保育所を巡回し、保育士のスキルアップ及び離職防止に努め、保育の質の向上に取り組んでまいります。

学校教育については、知・徳・体の調和がとれたきめ細かな教育を推進し、心身ともに健康で確かな学力を身につけた、「富津を愛し、富津の未来を託せる児童・生徒の育成」を図ります。

授業でのつまずきの解消や学習に対する意欲の向上を目指した、放課後学習教室は、引き続き、その成果と課題を検証してまいります。

新富の富津地区工業用地には、世界有数の火力発電所や産業機械メーカーなど多くの企業が操業しています。これらの企業と連携して工場見学や職場体験を行うなど、小中学校のキャリア教育を更に充実していきます。

現在、市内小中学校では、福祉教育の一環として、車いす体験や障がい者スポーツ体験等を通じて障がい者への理解を深めています。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、千葉県で開催されるパラリンピック競技を市内小中学校の児童、生徒が観戦することを企画しています。世界各国から来る障がいのある人がスポーツに果敢に挑戦する姿を通して、障がい者への理解を更に深めていこうと考えています。

2020年度から、小学校において新しい英語教育が全面実施されます。その円滑な移行を図るため、引き続き外国人英語指導助手及び英語指導員を各学校に派遣し、教材等を効果的に活用しながら、外国語及び外国語活動指導の充実に努めます。

天羽中学校については、学校関係者や地域の方々の意見を取り入れ、教育の変化や多彩な学習展開に対応し得る柔軟な施設、明快で機能的な配置、地域と学校を「つながり」場の3つを設計理念とし、来年の供用開始に向け新校舎建設を進めています。

児童、生徒の熱中症対策として着手した、小中学校の普通教室への空調設備設置については、6月の稼動を予定しています。

家庭教育支援をより一層進めるために、現在、中央公民館で週1回開催している「放課後ルーム」を更に富津地区、天羽地区の2つの小学校でも実施し、児童の体験活動や学習を支援するとともに、保護者が気軽に相談できる機会を増やしてまいります。

また、主に塾に通っていない中学3年生を対象に、社会教育指導員、家庭教育指導員及び市民ボランティアによる、学習サポート会を引き続き、実施します。

次に、健康都市 富津市の実現について申し上げます。

生涯を通じ、いつまでも住み慣れた地域で、からだも心も元気に、いきいきと暮らし続けることは、私たちにとって最大の目標であり、喜びであります。

平均寿命が延びる中、自分らしく健康的な社会生活を送り、健康寿命を延ばしていくことが重要であると考えます。健康寿命の延伸を妨げる要因である、脳卒中や

心筋梗塞、慢性腎臓病等の生活習慣病の発症予防や重症化予防のために、健康に対する意識を高め、適度な運動や睡眠、バランスの取れた食事を奨励します。より多くの市民の皆さんが、自らの健康状態を把握出来るよう、40歳以上の国民健康保険被保険者に対する特定健康診査や、18歳から39歳までの方を対象とした若年健康診査等の受診率の向上を図ります。

がん検診につきましては、早期発見、早期治療につなげるため、年齢により子宮がん及び乳がん検診を無料で受診できるクーポン券を配付します。胃・肺・大腸の3つのがん検診をすべて受診した方には奨励品を進呈し、受診率の向上を図ります。

更に、いつまでも自分の歯で食べられる喜びを保つため、成人歯科健康診査に加え、新たに歯科衛生士による乳幼児から高齢者までの虫歯予防や歯周病予防指導を実施します。

市民一人ひとりが健康な生活を送るうえで、地域における医療体制の充実は、必要不可欠です。地域医療の核である君津中央病院企業団の運営に必要な経費を負担し、地域医療の充実を図ります。

市民がいつでも安心して医療が受けられるよう、夜間及び休日の診療体制を維持してまいります。

「まちの創生」

次に、まちの創生について、申し上げます。

富津市は、南北40kmにおよぶ海岸線と鹿野山や鋸山など海や山に囲まれ、潮干狩り、海水浴、マリンスポーツ、トレッキングなど家族で楽しめるところがたくさんあります。豊かな自然が育む米、野菜、果物、魚介、海苔などの良質な農林水産物も豊富です。

また、南関東最大の内裏塚古墳などの古墳群、日本三陣屋の一つと言われている飯野陣屋跡、日本の近代化を支えた房州石の産地鋸山や第一海堡・第二海堡など、歴史や文化を伝える史跡が数多く残っています。東京湾越しに見える富士山も朝に夕に心を和ませてくれます。

このように、私たちの生活を豊かにしてくれるものが、富津市にはあふれています。富津市が持っている、他の自治体に負けない豊かな資源を様々な形で発信し続けることで、より一層多くの人に集っていただけるような、人に優しい、魅力あふ

れる、ふるさと富津市のまちづくりを行ってまいります。

市内への移住・定住を促進するため、一定の要件を満たし、新たに市内に移住し、県が開設するマッチングサイトに掲載される法人に就業した人に対し、U I J ターンによる起業・就業者創出事業補助金を交付します。

市民の移動手段を確保し、生活利便性の維持・向上を図るため、持続可能な公共交通網の形成を目指します。公共交通空白地域において、地域住民が主体となった移動手段の実現に向け支援してまいります。

自ら運転することが困難な高齢者等の移動手段の一つとして、タクシーの利用を促進し、費用負担を軽減するため、タクシーの利用料金を助成します。

(仮称)浅間山バスストップの供用開始に合わせて、利用者の二次交通を確保するため、カーシェアリングを誘致します。

道路整備につきましては、市民の利便性の向上を目指し、市道浅間山線、市道下飯野線、市道山王下飯野線、市道小久保岩瀬線などの整備を進めてまいります。

インフラの長寿命化につきましては、トンネル、舗装、法面の長寿命化計画を策定します。橋梁につきましては、岩瀬地先の海岸橋の補修工事を実施します。

土地に関する境界紛争などのトラブルを未然に防止し、効率的な土地利用や災害復旧の迅速化、公共事業の円滑な推進やコスト縮減のため、地籍調査を推進します。

消防体制につきましては、車両・施設等の整備を更に進めるとともに、消防活動に関する訓練や研修を通じて、消防職団員の連携を深めてまいります。更に、消防団経験者に火災や災害活動に特化した機能別団員として再入団を促し、地域消防力の向上を図ります。

近年、頻発する豪雨災害や大規模地震などによる人的被害を最少化するには、日頃から、防災に対する意識を高めることが重要です。自主防災組織の設立及び育成を推進し、地域防災力の向上に努めます。防災講演会や出前講座、地域の特性に応じた防災訓練を引き続き、実施するとともに、新たに地域の防災リーダーとなる「災害対策コーディネーター」を養成します。

交通安全対策につきましては、特に高齢者が関わる交通事故が増加しています。

警察署及び関係機関との連携を強化し、高齢者向けの交通安全教室の開催やドライバー向けの啓発活動を推進し、交通安全対策に取り組みます。

防犯対策につきましては、特に高齢者の被害が急増している電話 de 詐欺や空き巣

等の犯罪に対して、警察署や自主防犯団体等と連携し、様々な広報啓発活動を行い、市民の防犯意識の更なる高揚を図ります。新たに設立した自主防犯団体には資器材を支給します。また、犯罪抑止対策として、子ども、女性、高齢者及び障がい者に配慮し、防犯カメラの設置や死角となる危険箇所の点検・改善などを行います。

市民参加による活力あるまちづくりを推進するため、市民活動を積極的に支援します。誰もが安心してボランティアなどの市民活動に参加できるよう、保険に加入し、万一の事故に備えます。また、市民活動推進物品貸出制度における貸出物品を充実し、地域等で行う活動に少しでも役立てていただけるよう努めます。更に、市民活動への参加機会の拡大と市民活動団体のネットワークを築くため、団体登録制度を確立し、登録団体の情報を積極的に発信していきます。

市民サービスの向上のため、パスポートの申請受付、交付を10月から市民課窓口で実施します。

市民の利便性及び収納率の向上のため、市税のクレジットカードでの納付を開始します。

窓口などで行う手続きや観光、イベント情報などを一冊にまとめた、富津市市民便利帳2019を発行します。

市民の憩いの場である市民ふれあい公園につきましては、長寿命化計画を策定し、計画的に施設の維持管理、更新を推進します。

広域連携を進めていくことは、住民サービスを維持しつつ、新しい行政ニーズに対応していくための方法のひとつと考えます。水道事業は、本年4月にかずさ水道広域連合企業団に移行します。また、現在進めている（仮称）木更津市火葬場整備運営事業及び（仮称）第2期君津地域広域廃棄物処理事業につきましては、関係自治体と連携して進めてまいります。

富津市は、市民1人の1日当たりのごみ排出量が、千葉県平均を上回っていることから、1日のごみ排出量を1人100グラム減量する「富津市ごみダイエット作戦100」を実施し、環境負荷の軽減、ごみの処理経費の削減を進めてまいります。「生ごみの水切り」「食べ残しを減らす3010運動」「食材を有効に使い切る」など、ごみの減量化に関する情報を発信し、皆さんとともにごみの減量化に取り組んでまいります。削減された経費の一部は、市民生活に直結した事業として還元したいと考えています。

次に、福祉に関する様々な相談業務を集約し、児童、高齢者、障がい者への虐待とDV等への対応を一元化するため、「福祉の窓口課」を設置します。

高齢者福祉につきましては、「高齢者が地域でいきいきと輝くまち」の実現に向けて、地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を図ってまいります。

また、高齢者や障がいのある人たちが、地域で安全に安心して暮らせるよう、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、民間事業者等と連携し、声かけや安否確認などの見守り支援を行い、要援護者の状況を把握することで、孤独死の防止などに努めてまいります。

生活困窮者への自立支援につきましては、昨年4月に市役所内に相談フロアを設置したことから、相談件数、就労支援件数ともに増加傾向にあります。引き続き、生活困窮者自立相談支援事業を実施し、個々のニーズに対応した生活困窮状態からの自立を支援します。生活困窮世帯の子どもが安心して集まり、学習ができる環境を提供するための学習支援事業を実施します。

国民健康保険につきましては、引き続き、被保険者の健康を守り、医療費の適正化、財政の健全化に努めてまいります。子育て世帯の負担軽減を図るため、18歳以下の被保険者に係る国民健康保険税均等割額を減額します。

後期高齢者医療保険につきましては、引き続き、制度の周知をするとともに、各種申請などの受付業務、被保険者証の引渡し、保険料の収納を適正に行ってまいります。

「しごとの創生」

次に、しごとの創生について申し上げます。

富津市には、新富地区に代表される工業、豊富な資源を有する東京湾が育む水産業、緑豊かな大地が育む農業、豊かな自然とスポーツレジャー施設などを活用した観光業など様々な産業があります。都心から1時間というアクセスの良さも富津市の魅力の一つになっています。

「富津市に来たい」「富津市で何かしてみたい」「富津市で生活したい」そんな人々を増やしていきたい。そんな思いでこれらの魅力を磨き上げ、様々な方法により全国に発信してまいります。

富津市には、水稻、メロン、トマト、菜花、シイタケ、アジ、アナゴ、タチウオ、

海苔など多くの特産品があります。これら自慢の製品のブランド化を進め、地場産業である農業や水産業の活性化を図ってまいります。

ふるさとふつつ応援寄附につきましては、返礼品協賛事業者をはじめ、関係者が一丸となり返礼品のPRに努め、これまで全国の皆様からたくさんの応援をいただいています。引き続き、返礼品の充実、拡大を図るとともに、生産者の想いやこだわりを全国に広め、富津市の特産品のブランド力を高めてまいります。

農業においては、従事者の高齢化、有害鳥獣による農作物被害の増加による耕作意欲の減退を一因とする離農、新規就農者の減少などの問題が発生しています。これらの問題に対応するため、農地の利用集積、集約化の推進、次代を担う青年就農者の経営確立の支援、地域農業の担い手の育成・確保のために、農業機械・施設の導入支援を引き続き、行ってまいります。

有害鳥獣対策につきましては、捕獲わなの増設、侵入防止柵の設置範囲の拡大などにより、農林産物の被害防止対策を強化してまいります。捕獲した有害獣の処分が大きな課題となっていることから、その処理方法について引き続き、検討してまいります。

また、国土保全、水源かん養、自然環境を維持するなど、農業・農村が持つ、いわゆる多面的機能の維持・発揮を図るために、地域の共同活動や生産条件の不利な中山間地域等における農業生産活動を支援します。

水産業においては、従事者の高齢化、温暖化を始めとする海況の変化による不漁、新規漁業就業者の減少などの問題が発生しています。これらの問題に対応するため、のり養殖で使われる高速浸漬処理船の導入や共同加工施設の整備を行うことで、海苔の品質向上や生産者の労力軽減を図り、経営の安定につなげてまいります。

竹岡漁港の荷さばき施設の整備を行い、漁船漁業における生産・流通の効率化、品質・衛生管理の高度化及び市場機能の集約化を推進し、魚価の向上を図り、漁船漁業者の所得の向上につなげてまいります。水産基盤施設機能保全計画に基づき、安全で安定した水産物基盤施設としての漁港機能を維持するため、大貫漁港の機能保全工事を行います。

また、干潟の保全など、環境・生態系水産多面的機能の維持、回復や安心して活動できる海域の監視など、漁業者等が行う地域の活動を支援します。

商工振興につきましては、中小企業者及び創業者に対して、事業に要する資金を

円滑に調達できるよう、千葉県信用保証協会や市内の取扱金融機関と連携し、運転資金や設備資金の貸付融資及び利子補給を引き続き、行います。

日本政策金融公庫の小規模事業者経営改善資金融資を受けた事業者に対する利子補給を引き続き、行います。

国の認定を受けた創業支援事業計画の期間を延長し、引き続き、計画に基づく創業支援の取組を、富津市商工会や千葉県信用保証協会と連携し進めてまいります。

更に、富津市商工会の経営指導員や専門家の指導及び支援をいただきながら、事業承継セミナーや後継者育成セミナーなど、事業者や後継者への継続的なサポートを行ってまいります。

本年10月の消費税率引き上げに伴い、低所得者及び子育て世帯の消費に与える影響を緩和するため、2万円で2万5千円分の買い物ができる、プレミアム付商品券を販売します。

富津市には、豊かな観光資源のもと多くの観光客が訪れています。近年、自然とスポーツを融合させた取組として、鴨川から金谷までを走り抜ける房総半島横断トレイルラン&アウトドアクエスト、富津岬周辺を会場として行われるオープンウォータースイムやアクアスロン大会など多くのスポーツイベントが開催されています。

昨年、観光立国の推進に向けたインフラや公共施設の開放、公開の一環として、第二海堡上陸トライアルツアーが実施されました。好評であったことから、事業者と協力し、本格ツアーの実現に向け取り組んでまいります。

JR東日本千葉支社では、これまで市及び地元関係団体と協力し、浜金谷駅周辺で「駅からハイキング」を行っています。先月、新たに竹岡駅を起点として上総湊駅までを歩く「話題の燈籠坂大師の切通しトンネルと東京湾の絶景を楽しむハイキング」が行われ、700人余りの参加がありました。

今後とも多くの人に訪れていただけるよう、観光資源の掘り起こしや地域の魅力を発信し、交流人口の増加を図ってまいります。

現在、鋸山は日本寺羅漢石像群が県の名勝として指定されていますが、この指定範囲を石切場跡まで広げることにより、国指定の名勝へつなげるとともに、鋸南町と力を合わせ日本遺産登録を目指し、更なる地域の活性化を図ります。

(むすび)

以上、私の考え、また、それに基づく施策を申し上げてまいりました。

富津市はあふれる魅力、底力があるまちです。

そしてそれを磨き上げていくのは、私たち市民一人ひとりです。

現在、富津市は経営改革の真っ只中にあります。課題は少なくありませんが、行政だけでなく、取組を知っていただき、理解していただき、協力していただくことで、市民の皆さん、市議会議員の皆さん、地域、企業などあらゆる分野の皆さんと力を合わせて、改革を実現してまいります。

これからも対話を大切に、市民の皆さん一人ひとりが富津市に住むことに誇りや愛着を持ち、幸せを感じられるまちづくりに全力で取り組みます。

市民の皆さん並びに議員各位におかれましては、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。